FnnnP 栃木 Jr. 活動報告　証言集読み合せ会

FnnnP 栃木 Jr. メンバー　三　上　果南子　・　佐　藤　春　菜

日時：1回目 2015年6月16日（火）
　　テーマ：『家族』
　　2回目2015年6月25日（木）
　　テーマ：『生活の基盤』
目的：証言集を活用して多くの学生に、震災と原発事故により事故から4年が経過した現在でも尚、苦しみや葛藤を抱えて生活している人がいることを伝え、自分たちの生活と結び合わせながら今何ができるかを考える機会を提供すること。
場所：宇都宮大学UUプラザ2階
主催：FnnnP栃木Jr.

昨年、FnnnP 栃木 Jr. では 6 月 16 日（火）と 6 月 25 日（木）の 2 回に分けて、異なるテーマで証言集を利用した読み合わせ会を行いました。両日とも、以下のような形式で開催しました。また、イベント時間の都合上、証言は全文を紹介することはできず、私たちがとりわけ参加者と共有して考えたいと思った箇所を中心に、話題として取り上げました。

当日の流れ

1. 趣旨説明
2. Jr.メンバーが原発事故当時の流れや証言集に登場する基本的な用語、避難区域の変遷などについての説明をする。
3. Jr.メンバーがテーマに沿った証言を紹介する。
4. 各グループで、感じたことや印象に残ったことについて話し合う。
5. 5分ごとにグループのメンバーを入れ替えて、各グループで出された意見を共有する。
6. アンケート用紙・感想用紙への記入。

当日は、1 回目は 4 名、2 回目は 12 人の学生が参加してくれました。参加者の多くは国際学部生でした。また福島県出身者が参加者の大部分を占め、福島第一原発事故により少なからず何らかの影響を受けた人が多くみられました。幅広い学部や背景を持つ参加者が少なかったことは残念でした。

グループごとの意見交換・感想共有では参加者、そして Jr. メンバーがそれぞれ、証言者からの声を、自らが当時体験したことや見聞きしたこと、感じたことと結びつけながら、話し合うことができました。原発事故後、あまり自分の気持ちを表に出す機会がなかった学生にとってこの企画は他者と意見交換や情報の共有を行い、それまで溜めていた思いを吐き出す良い機会になったと思います。企画した Jr. メンバーからも、「証言者の経験や思いを参加者のみんなと共有できたこと、感想や思いを読み合わせ会というイベントを通して共有できて有意義でした。また参加者自身 2011 年 3 月 11 日の出来事や感情を思い出し、振り返り、辛くなったり悲しくなったりした人もいたと思いますが、今後同じ過ちを繰り返させないためにも、あの日の出来事や思いを忘れずに過ごしていければと思います。」という声が出されるなど、私たち自身にとっても、意味のある活動となりました。

今後も、今求められているニーズを模索しながら、活動を行っていきたいと考えています。

証言集読み合わせ会に参加しての感想

2015 年 6 月 16 日と 6 月 25 日に学生ボラン

ティア団体 FnnnP 栃木 Jr. が開催しました「原発事故避難者証言集読み合わせ会」に出席した学生の原発事故や避難に対する感想、考察です。

今回、証言集の読み合わせ会に参加して、改めて福島原発の問題は忘れ去ってはいけないものだと実感しました。私自身福島県出身であるということもあり、この証言集を聞いていくうちに“あの頃”のことを思い出し、今まで自分の中で時間と共にうすれていたことに怖さのようなものを感じました。

この原発事故は、福島県民の中では過去の話ではなく、まだ続いていることであり、日本にとっても忘れてはいけない事故である。それにも拘らず、他見などではさほどニュースにもされず、同じ日本国の中で起こり、皆が考えなければいけないことであるのに、どこか他人事である現状にこれからの日本に対する不安を抱きました。これからの日本社会において、個人がもっと積極的に関っていって欲しいと思いました。

少し自分の中でも「昔のこと」として片付けていたこの原発事故に、改めて向かい合う機会を得られて本当に良かったと思いました。今後は自らこのことを社会に訴えかけられたら、自分も日本社会を少しでも変える一歩になるのではないかと考えました。

国際学部２年　渡邊菜緒

福島県出身として、震災のことを忘れることは決してない、ということは断言できると思います。しかし、今回の読み合せ会を通して、放射能や風評被害など、他の人の話を聞いたり、自分自身の考えを話したりということを通して、やはり少しずつ忘れてしまっている部分や想いがあったことに気が付かされました。私自身、被災者とは言えない立場なので、少し想いが足りなかったなと思うことがありました。しかし、福島にいて、当時高校生で自分自身が無知だったことも含めて、「知らないこと」の罪というのは言い過ぎですが、無知であったことも責任があると思う気持ちは変わりませんでした。安全だと言った人にももちろん責任はあると思いますが、無知だったことを棚に上げてグチばっかり言うのはちがうと思います。これからのことを考えていかなきゃいけないと思います。風評被害に苦しみながらそれでも頑張る農家さんたちの姿を福島のＴＶニュースで見ていたことは、この気持ちに大きく関係していると思います。

国際学部２年　鈴木未来

「避難証言集読み合せ会」に参加して一番強く感じたのは、自分が普段の生活で意識していないだけで、今も原発災害、震災による被害は続いているということです。同郷の福島県民である人々が、証言集にあるような辛い現実に直面していることを改めて感じ、自分の意識を反省しました。参加してよかったです。

国際学部３年　渡邉　翔

今回は福島県の被災者の話の読み合せであったが、出身地が福島県の参加者が多く、相互に話し合う機会があった。

出身市町村がばらばらであったため、さまざまな地域の視点から意見を聞くことができた。自身の被災だけでなく、それぞれの状況を知り、被災の仕方も一つではないことを知った。

私は福島県出身だが、私の地域は避難者を受け入れる側の出身であった。今回の会でいくつもの地域からの人がいて、また違った見方があり、とても有意義であった。

大学生活で真剣に話し合ったことがなかったので、定期的にこのような会があれば積極的に参加したいと思った。

国際学部２年　酒井良和

今まで、東日本大震災や原発災害についてはあまり知識がなく何もしてこなかったため、何が自分に出来るかも分からない状況だった。しかし、「避難証言集読み合わせ会」に出席し、原発災害がどのように発生したかや、言葉など学べてよかった。更に、このように被災者の気持ちを知る機会が今までなかったため、とても貴重な経験になったと感じている。私がこの学習会に参加して最も強く思ったのは、まず「知ること」が大切だということだ。自分達が生きていく社会、自分達がこれから創っていく社会のことだから、社会についてもっと考えなければならないし、自分達の傍らにいる犠牲者のことをもっと知る姿勢が必要だと考えた。

国際学部２年　岡本美穂